

歴史編目次

第一章 原始～古代編	3	第二章 中世編	17
第一節 旧石器時代	3	第一節 鎌倉時代	17
一 旧石器時代の南予や八幡浜	3	一 院政のはじまり	17
(一) 石を加工した石器	3	二 鎌倉幕府の創設	17
(二) 旧石器時代の八幡浜	3	三 南予の状勢	17
(三) ナウマンゾウの化石の発見	4	(一) 矢野郷の状勢	17
第二節 新石器時代	4	(二) 宇和郡の状勢	17
一 南予の縄文時代	4	(三) 喜多郡の状勢	18
(一) 須川丸山遺跡	4	(四) 南予の武士団	18
(二) 磯岡遺跡	5	四 記録にみられる伊予国矢野保(庄)	18
(三) 縄文土器	5	(一) 『古今著聞集』～黒島のネズミ	18
二 南予の弥生時代	6	(二) 『室町院所領目録』	18
(一) 米作りの始まり	6	五 信仰	18
(二) 八幡浜の弥生遺跡	6	第二節 南北朝・室町時代	19
第三節 古墳時代	7	一 摂津氏の領国	19
一 南予の古墳時代	7	(一) 足利軍の行方	19
(一) 笠置峠古墳	7	(二) 「八幡浜」の初出	19
(二) 小森古墳	8		
(三) 八幡浜の古墳	8		
(四) 祭祀遺物	9		
(五) 市・町民による発掘調査	9		
第四節 古代	10		
一 飛鳥・奈良時代	10		
(一) 宇和郡衙(郡の役所)	10		

第三節 戦国時代……………20

一 宇都宮房綱側の山城……………20

(一) 萩森城……………20

(二) 城高城……………22

(三) 飯森城……………22

(四) 長崎城……………23

(五) 高森城……………23

(六) 「宇都宮房綱侍帳」……………23

二 撰津氏側の山城と家臣たち……………23

(一) 元城……………24

(二) 今城……………25

(三) 天神山城……………25

(四) 磯崎城……………25

(五) 石之棟城……………25

(六) 田中城……………26

(七) 江の川城……………26

(八) 飯之山城……………27

(九) 周治ヶ丘城……………27

(一〇) 坂出城……………27

(一一) 都合城……………27

三 城と砦の形態……………28

四 八幡浜地域の一六世紀後半の合戦……………28

(一) 弘治の鳥坂合戦……………29

(二) 鳥坂合戦……………29

(三) 飯森城合戦……………31

(四) 撰津親安の各地への出陣……………33

(五) 元城合戦……………33

(六) 宇都宮房綱の動向……………33

第四節 戦国末期の大名・領主・武将……………35

一 長宗我部氏の没落……………35

二 撰津氏や宇都宮氏の家臣団の動向……………35

第五節 南北朝・室町・戦国時代の社会経済と文化……………35

一 「村」の形成……………36

二 八幡浜商人のルーツ……………36

三 信仰……………36

四 都の文化の普及……………38

五 石造物……………38

(一) 鎌倉時代……………38

(二) 南北朝時代……………39

(三) 戦国時代……………39

第三章 近世編……………41

第一節 戸田・藤堂・富田支配の時代(近世初頭)……………41

一 領主の交代……………41

二 新支配者と領民との軋轢……………41

(一) 戸田勝隆と文禄検地……………41

(二) 藤堂高虎と松葉騒動……………42

(三) 富田信高と塩成運河……………43

三 安土桃山・江戸期の石造物……………43

(一) 高德寺の宝篋印塔……………43

(二) 五輪塔の記銘年号……………43

四 八幡浜地方の鉄砲鍛冶……………44

(一)	土居清良の鉄砲隊	44	(四)	五人組	54
(二)	八幡浜の鉄砲師	44	一一	藩の税制	55
第二節 伊達家の治世・前期(秀宗・宗利・宗贇の時代)		45	(二)	村方	55
一	藩祖伊達秀宗	45	(二)	浦方	55
(一)	藩の運営	45	一二	藩の通貨	56
(二)	山家清兵衛事件	45	一三	吉田藩の出来事	56
二	吉田藩の成立と八幡浜	46	一四	参勤交代	57
三	八幡浜の浅井家	46	(一)	経路・日程・人数・経費	57
(一)	浅井家の出自	46	(二)	参勤交代行列は八幡浜を通ったか	58
(二)	大法寺開基・開山	47	第三節 伊達家の治世・中期(村年・村候・村壽)		59
四	正保・寛文検地	47	一	江戸時代中期の宇和島藩	59
五	日土村九左衛門の直訴―百姓一揆の先駆け	47	二	産業の発達	59
六	鬪持制度の実施	48	(一)	八幡浜浦の商家	59
(一)	内拵検地・鬪持制度	48	(二)	銅鉱山開発の開始	60
(二)	高直しのための検地	48	(三)	蠟産業の隆盛	61
(三)	高持制の復帰	49	(四)	米の品種改良	62
七	新田・新畑開発	49	(五)	焼物業(瓦焼き)	62
(一)	井手の開削	49	三	百姓一揆の多かった南予	64
(二)	新畑開発	50	(一)	八幡浜の百姓一揆の特徴	65
八	二代宗利の頃の八幡浜	51	(二)	喜木津・広早浦騒動	65
(一)	五尊仏の移動	51	(三)	日土村筵田騒動	65
(二)	隠居・宗利の来訪	51	(四)	宮内村騒動	66
九	組制度	52	(五)	中津川村騒動	66
一〇	藩政の組織	52	(六)	郷村騒動	66
(一)	郡奉行	52	(七)	日土村騒動	66
(二)	代官	52	(八)	郷村・川之内村騒動	67
(三)	村方三役	54	四	江戸時代中期の出来事	67

(一)	藩主御滞在の栄誉	67	(九)	陶器製造(八代焼)	90
(二)	日土村宇太郎の学問修業	68	(一〇)	一九世紀の八幡浜港	90
(三)	天明大飢饉と萩森事件	68	四	四国遍路	92
(四)	伊能忠敬測量隊の来訪	69	(一)	四国八十八か所遍路	92
(五)	八幡浜の刀鍛冶	70	(二)	笠置峠と街道	93
五	江戸中期の埋立事業	70	(三)	お四国山八十八か所霊場の開山	94
(一)	川之石湾	70	(四)	八幡浜市内にあるほかのミニ二版	95
(二)	八幡浜湾	71	五	旅日記・手記	97
六	矢野の神山	71	(一)	日土村利右衛門の旅日記	97
第四節	伊達家の治世・後期(宗紀・宗城・宗徳)	72	(二)	清家堅庭の長崎旅日記	97
一	江戸時代後期の宇和島藩	72	(三)	野田五升の江戸旅日記	97
(一)	長州征討と領民の様子	72	(四)	矢野正方の手記	97
(二)	前原巧山の蒸気船軍艦の建造	74	(五)	『岡太仲旅中手控』	97
(三)	宇和島藩の借金	75	六	天変地異	98
(四)	二宮敬作の活躍	77	(一)	地震	98
二	八幡浜の文化の発展	78	(二)	飢饉	99
(一)	国学・和歌	78	七	農漁村から商業の町へー八幡浜浦	100
(二)	俳諧	79	(一)	戸数・人口の増加	101
三	産業の更なる発達	80	(二)	商人・職人の多い町に	101
(一)	鰯漁と浦方の生活	80	八	江戸時代の八幡浜の医療	101
(二)	新浦開発ー大島の開発	81	(一)	適塾入門者	101
(三)	海運業	82	(二)	種痘の実施	102
(四)	織物業	84	第四章	近代編	104
(五)	製紙業	86	第一節	明治維新と八幡浜	104
(六)	牛馬の飼育	86	一	明治新政府の成立	104
(七)	水田拡張と争い(い)	87	二	地方自治制度の基礎	104
(八)	酒造り	88			

三 維新で活躍した宇和島藩主・藩士	105	(三) 衆議院議員選挙	120
四 西南戦争と八幡浜	106	二 国際情勢	121
(一) 西南戦争	106	(一) 欧米諸国の中国進出	121
(二) 上甲振洋の働き	106	(二) 日清戦争	121
第二節 明治初期の八幡浜	107	(三) 日露戦争	121
一 風俗の変化	107	(四) 八幡浜にとっての日清・日露戦争	122
(一) 四民平等	107	三 新しい産業の始まり	122
(二) 苗字・戸籍・散切り	107	(一) 川之石の紡績工場の発展	122
(三) 太陽暦	107	(二) 八幡浜の紡績工業の発展	124
二 新時代に直面した農民たち	107	(三) 養蚕と氷室建設	125
(一) 青石騒動(茅の河原騒動・お庄屋征伐)	107	(四) かまぼこ製造	126
(二) 無役地事件	109	(五) 新聞業・印刷業	127
(三) 地租改正	110	(六) 神山産業信用組合などの設立	127
三 産業の発展	111	(七) 明治末期の商店・製造業など	127
(一) 川之石浦の第二十九国立銀行	111	(八) 鳥越峠を越える「馬車道」の完成	129
(二) 鉱山業の隆盛	113	四 海外渡航	129
(三) 海運業の発展	114	(一) 西井久八の活躍	129
四 市街地の拡大	116	(二) 真珠貝採取での進出	130
(一) 八幡浜港	116	(三) 密航	131
(二) 川之石湾	117	五 各界で活躍した八幡浜人	133
五 そのほかの動き	118	(一) 禾山和尚	133
(一) 明治期の医者	118	(二) 大関朝汐	134
(二) 海軍省の天測起点地	118	(三) 二宮忠八	135
第三節 明治中・後期の八幡浜	119	六 文化・そのほか	137
一 国内情勢	119	(一) 四国八十八か所遍路	137
(一) 民権運動の広がり	119	(二) 明治中期の「宮内焼」	138
(二) 大日本帝国憲法発布	120	七 生活の変化	139

第四節 大正から昭和初期	139	第五節 太平洋戦争中の八幡浜	158
一 国内外の動きと八幡浜への影響	139	一 孤立化する日本	158
(一) 国際情勢	139	二 太平洋戦争	159
(二) 国内情勢と八幡浜の状況	140	(一) 開戦	159
二 産業	141	(二) 八幡浜第一防空壕	159
(一) 柑橘栽培	141	(三) 八幡浜の空襲	159
(二) 水産業	142	(四) 陸軍剣山部隊の配備	161
(三) 紡績工業	143	(五) 建物疎開	162
(四) 第二十九銀行〈豫州銀行〉伊予銀行	143	(六) 戦死者	162
(五) 「灘生活協同組合」の発足	144	(七) 国家国民の総力結集	162
三 大正時代の文化	144	(八) 戦時下の国民生活	163
(一) 建築物	144	(九) 原子爆弾の投下 敗戦	166
(二) 八幡浜俳壇の隆盛	145	三 昭和一八(一九四三)年の大水害	166
(三) 高橋新吉のダダイズム	146	(一) 二度の台風被害	166
(四) 現代俳句の旗手・富澤赤黄男	147	(二) 満州開拓青年義勇隊の救援	167
(五) 川之石図書館	148	(三) 相川橋	167
(六) 野口雨情・吉井勇と八幡浜	148		
(七) 「青い眼の人形」	149		
四 八幡浜と飛行機	150		
(一) 八幡浜水上飛行場の存在	150		
(二) 川之石水上飛行場	150		
五 八幡浜市誕生前の八幡浜町	151		
六 八幡浜市の誕生	152		
(一) 合併前の動向	152		
(二) 酒井新市長の誕生	153		
七 南予の鉄道網の整備―予讃本線全通	154		
八 昭和一〇年代の『八幡濱とところどころ』	155		
		第五章 現代編	169
		第一節 戦後復興期の八幡浜	169
		一 新しい日本の建設	169
		二 社会の混乱	169
		(一) 食糧難時代	169
		(二) インフレーション(物価上昇)	170
		三 民主化・近代化の動きの中で	170
		(一) 日本国憲法の制定	171
		(二) 女性参政権と国や県の動向	171
		(三) 警察制度の改革	173

(四) 市消防の発足	173	(三) 高度経済成長とレジャー	193
(五) 農地改革(農地解放令)	173	四 交通路の整備	194
(六) 教育制度改革	175	五 八幡浜青年会議所の活躍	196
(七) 労働組合の結成	175	六 愛媛県の勤評闘争	197
四 八幡浜市政	176	七 東京オリンピック	197
(一) 市財政の窮乏	176	第三節 高度成長から安定成長への転換期の八幡浜	199
(二) 混乱期を差配した長井市長	176	一 オイルショック後の落ち込み	199
(三) 初の公選により選ばれた菊池市長	176	二 南予用水事業	199
五 産業経済界	177	(一) 昭和四二年大干ばつ	199
(一) 商工業の復興	177	(二) 南予用水建設	200
(二) 農業	179	(三) 八幡浜市の南予用水	200
六 人間天皇の八幡浜行幸	180	三 伊方発電所	201
七 スポーツ	180	(一) 四国電力・伊方発電所(伊方原発)の歴史	201
(一) 「横綱前田山」の誕生	180	(二) 伊方原発をめぐる状況	202
(二) 第八回国民体育大会	181	(三) これからの原発の行方	202
八 青少年の育成に尽力した人たち	181	四 部落解放運動	202
(一) つばみ児童文化研究会の活動	181	(一) 部落解放運動の概要	202
(二) 八西柔道会	182	(二) 愛媛県の部落解放運動	203
第二節 高度経済成長期の八幡浜	183	(三) 八幡浜における部落解放	203
一 昭和の大合併	183	五 産業	204
二 産業	185	(一) 農業各賞受賞	204
(一) 農業と天皇杯受賞	185	(二) 水産業と八幡浜市水産物地方卸売市場の開設	204
(二) 水産業と養殖のはじまり	185	(三) 工業と発展・拡張	205
(三) 商業と大型スーパーマーケットの進出	186	(四) 商業と商業の中心地の移動	206
三 高度経済成長期と観光・レジャー	187	六 公園、スポーツ・文化施設の建設	206
(一) 両市町の観光案内	187	(一) 公園	207
(二) 民間人による観光開発ー佐島パーク	192	(二) スポーツ施設	207

(三) 文化施設	207
七 高齢社会と福祉	208
八 先人たちの偉業を顕彰する取組	208
第四節 平成の大合併	210
一 八幡浜市と保内町の平成大合併	210
二 諸団体組織の合併・統合	211
三 八幡浜市合併一〇周年記念式典	212
四 八幡浜市の新しい開発	212

題字 井上憲久